

施策番号	1704		
施策名	健康危機に対する安全・安心の確保		
概要	新型インフルエンザをはじめとする感染症や食中毒等の健康危機事案に対し、市内の医療機関等との連携により、迅速かつ的確な予防と蔓延の防止対策を進める。		
担当局・部室	保健福祉局・医療衛生推進室	共管局・部室	
上位政策	17 保健衛生・医療		
施策に関係する 主な分野別計画等			

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	腸管出血性大腸菌による感染症の発生件数 (件)	c	b	25	32	25	72.0%	c	1.00
2	定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数の 全国比(%)	b	c	76.3	75.8	69.8	91.4%	c	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		b	b	客観指標総合評価				c	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度回答							
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数	評価	
1	感染症や食中毒等の健康危機に対し、 安全と安心が確保されている。	b	b	76	304	222	32	11	645	b	
				11.8%	47.1%	34.4%	5.0%	1.7%			
2		-	-							-	
3	-	-	-							-	
4	-	-	-							-	
5	-	-	-							-	
		b	b	市民生活実感調査総合評価							b

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている						
	重み付け	☐ 客観指標	c	☒ 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 健康危機に対する安全・安心の確保は、市民生活に密接に関わる施策であることから、市民生活実感調査を重視する。						平成30年度	B
(原因分析)客観指標総合評価 ☐ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・「定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数の全国比」は減少したものの、「腸管出血性大腸菌による感染症の発生件数」が増加したことから、c評価以下となった。						平成29年度	B
(原因分析)市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		令和元年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		平成30年度 決算額	令和元年度 予算額		
1	性感染症対策	49,753	49,682	かなり良い	保健福祉局
2	エイズ対策	77,583	74,149	普通	保健福祉局
3	肝炎ウイルス検査	75,294	71,579	良い	保健福祉局
4	結核定期健診	106,174	111,862	良い	保健福祉局
5	結核定期外対策事業	71,125	72,202	良い	保健福祉局
6	結核対策特別促進事業	68,286	68,630	良い	保健福祉局
7	風しん予防接種(任意接種)	37,907	20,906	かなり良い	保健福祉局
8	感染症予防対策	70,592	75,294	かなり悪い	保健福祉局
9	結核・感染症発生動向調査	69,526	69,458	かなり良い	保健福祉局
10	O157等腸管出血性大腸菌対策	62,756	63,249	悪い	保健福祉局
11	風しん抗体検査	34,337	15,749	かなり良い	保健福祉局
12	骨髄移植等の医療行為により抗体を失った者に係る再接種費用助成	1,160	2,717	良い	保健福祉局
13	飲料水衛生管理指導	63,208	63,307	良い	保健福祉局
14	建築物衛生(ビル衛生管理)	61,410	61,825	良い	保健福祉局
15	薬物乱用防止啓発事業	5,797	5,878	良い	保健福祉局
16	京都市衛生環境研究所と京都府保健環境研究所の共同化による整備事業	739,297	2,049,720	—	保健福祉局

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・腸管出血性大腸菌などの感染症や食中毒等の発生に備え、市内の医療機関等との連携により迅速・的確な予防とまん延防止の取組を進める。
・インフルエンザの感染拡大防止のため、予防接種の勧奨、手洗い・うがいの励行等の予防方法について、インターネットや啓発チラシを通して広く市民や関係団体へ周知する。

施策名	1704	健康危機に対する安全・安心の確保				
指標名	腸管出血性大腸菌による感染症の発生件数（件）					
担当課	健康安全課		連絡先	2 2 2－4 2 4 4		
1 指標の説明						
O111，O157等の腸管出血性大腸菌による感染症発生件数						
2 指標の意味						
感染症の発生状況を示す指標			3 算出方法・出典等			
			算出方法：各年度の発生件数の合計 出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	平成29年度	平成30年度		数値	根拠	達成度
数値	25	32	7件増	25	過去5年間の最低値（平成27年度，平成29年度）	72.0%
	全国順位	中長期目標			備考	(参考：過去5年の発生件数) 平成25年度：47件 平成26年度：35件 平成27年度：25件 平成28年度：30件 平成29年度：25件
		数値	目標年次	達成度		
数値						
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果	
最新の数値が過去5年間の a：最低値未満 b：最低値以上～下中間値（最低値と平均値の間）未満 c：下中間値以上～平均値未満 d：平均値以上～上中間値（平均値と最高値の間）未満 e：上中間以上			過去5年間の数値を基に，過去5年間最低値未満をa，平均値未満をcとし，最高値も含めた按分で基準を設定した。 最低値：25件（平成27年度，平成29年度） 平均値：32.4件 最高値：47件（平成25年度）		平成29	平成30
					c	b
					c	c
指標名 定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数の全国比（％）						
担当課	健康安全課		連絡先	2 2 2－4 2 4 4		
1 指標の説明						
インフルエンザの流行発生状況の指標となる定点当たり報告数の全国比						
2 指標の意味						
感染症の発生状況			3 算出方法・出典等			
			算出方法：本市の定点医療機関当たり報告数（年間）/全国の定点医療機関当たり報告数（年間）			
4 数値						
	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	平成29年度	平成30年度		数値	根拠	達成度
数値	76.3	75.8	0.5ポイント減	69.8	過去5年間の最低値（平成26年度）	91.4%
	全国順位	中長期目標			備考	(平成30年度) 本市の定点医療機関当たり報告数：235.9件 全国の定点医療機関当たり報告数：311.3件 (参考：過去5年の比率) 平成25年度：85.4% 平成26年度：69.8% 平成27年度：87.8% 平成28年度：70.4% 平成29年度：76.3%
		数値	目標年次	達成度		
数値						
5 評価基準			6 基準説明		7 評価結果	
最新の数値が過去5年間の a：最低値未満 b：最低値以上～下中間値（最低値と平均値の間）未満 c：下中間値以上～平均値未満 d：平均値以上～上中間値（平均値と最高値の間）未満 e：上中間以上			過去5年間の数値を基に，過去5年間最低値未満をa，平均値未満をcとし，最高値も含めた按分で基準を設定した。 最低値：69.8%（平成26年度） 平均値：77.9% 最高値：87.8%（平成27年度）		平成29	平成30
					b	c
					c	c